

第6学年「家庭」学習指導案

授業者 岡部 雅子

2月17日（金）4階家庭科室 10:00～10:40 話し合い 10:55～11:45

1 単元名 お金を使うということはどういうことなのかー見えないところも見て選ぶー

2 単元について

子どもたちは、生まれた時から消費者として存在している。お金をはらって物やサービスを手に入れるということは、ふだんの生活の中で当たり前の行為であり、足りない物を補うという必要性のみならず、嗜好や流行り、低価格、見た目などに左右されているようにも思う。現代の消費社会に生きる子どもたちと、お金を使うということについて、立ち止まって考えてみたい。

物やサービスにお金を使うということはどういうことなのか、改めて考えてみると、それは、物事の価値についての自分の考えを表現することではないだろうか。そして消費者には、消費者としての役割や責任があり、その判断が企業への投票といわれるように、社会への影響力をもつものであるという自覚を持たなければならない。売れるべき商品、長く売れ続けてほしい商品を選ぶために、どういう視点で、情報をどう整理し、それらを総合的に判断して何を選ぶかという最終的な意思決定に至るまで、ひとりひとりがよく考える必要がある。それは、大人であっても子どもであっても同じことである。

本単元では、子どもたちの生活に身近なチョコレートを取り上げ、商品を選ぶ時の視点として、食品表示等の見えるところから読み取れることだけではなく、材料を手に入れる過程や環境とのかかわりについて考える必要があることを学ばせたい。エシカル消費を積極的に学んでいるお茶の水女子大学附属高等学校の生徒に、児童労働についてのプレゼンテーションをしてもらう。国際社会に生きる同じ人間として、自分たちと同じ年代の子が置かれた状況を自分事として受け止め、関心を持つことで、今後の消費行動を考えるきっかけとなつてほしいと願っている。

3 学習指導計画（3時間目／全8時間…うちてつがく2時間）

- (1) 「お金を使うということはどういうことなのか」について考える。（2時間…てつがく）
- (2) チョコレートを選ぶ基準を考え、優先順位をつけ、その考えを友達と交流する。（1時間）
- (3) 児童労働とフェアトレードについて知り、考えを交流する。（2時間…本時1／2時間目）
- (4) フェアトレードチョコレートを使ったおやつ作りをする。（2時間）
- (5) 学習を振り返る。（1時間）

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・児童労働についての高校生のプレゼンテーションを聞き、物を買う時の新たな視点を得る。
- ・チョコレートを選ぶ視点について、友達と対話をし、自分なりの考えを持つことができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○児童労働についての高校生のプレゼンテーションを聞く。	○問いをもちながら聞くようにさせる。
○プレゼンテーションを聞いて、ファミリー内で対話をし、意見交流をする。	○ファミリーでひとりずつ高校生に入ってもらい、対話に入ってもらおう。
○チョコレートを選ぶときの新たな視点や、フェアトレードの意義について学級で共有する。	○短絡的に結論を出すのではなく、多面的に考えるようにさせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・家庭科における“てつがくの課題”について。